

平成30年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

1 学校の教育目標	1 自己の個性を伸ばし、意欲的に学び続ける人間の育成		
	2 自主自立の精神を持ち、社会の発展に寄与する人間の育成		
	3 心身ともに健康で、心豊かなたくましい人間の育成		
2 今年度の重点目標	1 個に応じたキャリア教育の推進	4 心身の健康増進と安心・安全教育の充実	
	2 授業の充実による学力の育成	5 特別支援教育の推進	
	3 生徒指導の充実による生徒の社会力の向上	6 危機管理体制の整備	
3 昨年度の成果と課題	1 文部科学省の委託事業として行ってきた「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」により、ある程度の成果を得たが、次年度以降それをどのように発展させるか。		
	2 本校生徒の対応した「探究型学習」をさらに発展させるとともに、ユニバーサルデザインの授業展開を充実させる。		

評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

領域	重点目標	評価項目	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
学校経営計画	・開かれた学校づくりの推進 ・信頼される学校づくりの推進	・学校評価の実施と活用 ・学校関係者評価の活用 ・教育公務員としての倫理観の涵養	B	昨年度の第2回学校評議員会を受け、定時制では行事の都度HPで学校の様子を伝えるように努めた。また、職員員の倫理観向上のために、山形警察署による交通安全講話の他、教員のICT機器活用に関する基本ルール等の研修を行った。	県民に信頼され期待される学校づくりを推進するためには、本校の教育内容を広く知らせる必要がある。今後ともHPの充実はもとより、文書情報も充実させる。また、職員員の倫理観向上のために、これまでの山形県内で発生した教職員の不祥事を用いたケーススタディの研修を考えた。	B	○在校生の活躍を耳にすることができて誇らしい。入学を検討する方にも良いアピールができていと思う。 ○職員一人ひとりが問題や悩みを抱えず、チームで対処していく仕組みづくりが開かれた信頼される学校づくりにつながると思う。
学習指導	・確かな学力の育成 ・確かな学修の保障	・授業評価の実施と活用 ・シラバスの作成と活用 ・面談・添削を通じた学習意欲の喚起	B	基礎学力定着をテーマとした研究授業や年2回の授業評価を実施し、授業改善に努めた。シラバスを活用して教科ガイダンスや個人面談等を実施し、生徒一人ひとりの学習意欲喚起に努めた。	新教育課程の内容理解を深め、移行に向けて準備を進める。生徒個々の目標・進路に応じた履修登録を進め、生徒の単位修得率向上と学習意欲の更なる高揚に努める。	B	○授業の教え方がわかりやすいと感じている生徒が7割。残りの3割の生徒の思いをくみ取ってほしい。 ○単位取得という目先の目標だけでなく、学ぶ楽しさを伝えるような工夫をお願いしたい。
生徒指導	・人間の在り方生き方を考える生徒指導の充実 ・いじめ防止の取組の充実	・HR活動や行事を通じた自己有用感と他人を思いやる心の育成 ・生徒間での豊かな関係性が保てる指導	B	霞城祭等の生徒会行事への積極的な取り組みにより自己有用感の醸成を図った。地域貢献活動(清掃)や植樹プロジェクトのボランティア活動を実施し、社会性の育成に取り組んだ。2度のアンケート調査により、いじめの把握と早期対応に努めた。	新入生の高校生活における初期指導を、これまで同様に細やかに丁寧に行う。日々のHR活動や生徒会の諸活動を通して、人との関わり方や社会生活の営み方を身につけさせる指導を続ける。	B	○いじめを生まない、風通しのよい環境づくりを期待する。 ○多様な生徒への対応には苦勞もあると思うが、これからも一人ひとりに丁寧に寄り添う指導を期待したい。 ○他の高校より、指導する先生の人間力が求められるのが霞城学園高校の特徴だと思う。人間的な関わりの中で、霞城学園高校を卒業する生徒を増やして欲しい。
進路指導	・キャリア教育の充実	・進路情報提供と進路ガイダンスの実施 ・生徒の多様な進路目標への対応 ・卒業予定者の進路決定率の向上	A	就職は、昨年度の内定率100%に対し、今年度は90.9%ということで、数字だけ見ると厳しい状況であった。しかし、本校生徒の就職希望者数が11名増加していることや、昨年度からさらに新卒求人数が増加しているということもあるが、一社目の受験で内定をいだけたく生徒が多かった。進学を含めた進路決定率は、86.0%(昨年75.51%)	国の委託事業にかかわるキャリアカウンセラーと進路アドバイザーが昨年度で終了したが、今年度、回数は減少したものの、県や本校PTAの事業で継続したことがとても大きかったので、継続して実施できるような体制作り。	A	○内定率の高さは評価できる。企業では定着率が問題であることから、その視点でのキャリア教育も求められるのではないかと。 ○生徒自ら選択できるよう、「意識して働きかける」「思いを刺激する」工夫された形の情報提供が必要だと思う。 ○評価項目にある「多様な進路目標」に引き続き力を入れて欲しい。
健康安全指導	・保健衛生安全管理指導の充実 ・危機管理体制の整備	・危機管理マニュアルの点検 ・防災・不審者対策の訓練・研修の実施 ・医療相談機関との連携の強化	B	防災訓練・不審者対策訓練及び研修会を実施し危機管理の意識向上に努めた。また、生徒・保護者及び教職員を対象とした教育相談等を実施し、メンタルヘルス面の支援充実にも努めた。	危機管理マニュアルの再点検と供に霞城セントラル管理組合との連携を図り、危機管理体制の充実にも努める。また、精神的に不安定な生徒に対しての個別相談を継続実施する。	B	○最近のSNSの悪ふざけの動画でみられるような「デジタルタトゥー」だが、目先のことのみを考え全体を俯瞰する力不足が要因になっていると感じる。行動に対する結果責任を学ぶ機会が必要ではないかと。
家庭・地域との連携	・保護者や地域への情報発信 ・生涯学習講座の充実	・「霞城学園通信」「霞城通信」の発行 ・HPを利用したの情報発信 ・魅力ある講座の編成と生徒の参加促進	B	HPや各種通信の定期発行を活用するなどタイムリーな情報発信に努めた。生涯学習講座は「山形の自然と防災」を新たに開講、「篠笛の楽しみ」は後期も開講し充実を図った。	HPや各種通信を通して引続き情報発信に努めると供に発信内容の検討を図る。生涯学習講座では内容の充実を検討すると共に外部へのPRを強化し参加者拡大を目指す。	B	○情報発信や家庭との連絡体制が強化されているようでよい。生涯学習講座で受講者の希望で後期開講された講座があるなど活発ですばらしい。 ○保護者をもっと学校に関わらせる取組が必要と考える。
特別支援教育	・特別支援教育の推進	・外部機関との連携と研修の充実 ・個別の支援計画や支援プログラムの作成 ・授業のユニバーサルデザイン化	B	支援の必要な生徒に対して、昨年同様個別の支援チームを組み、情報を共有し、外部機関の指導・助言も受けながら組織的に対応した。ライフスキル講座を引き続き実施した。	職員研修会・生徒理解研修会の実施等を通じ、特別な支援を必要とする生徒への理解を深め、個々の生徒のニーズに対応するためのさまざまな知識の習得・スキルの更なる向上を図る。	B	○特別な支援が必要な生徒向けにわかりやすい授業をするのは、他の生徒にとっても有効だと思う。 ○発達障がいへの対応は、担当の先生方だけでなく関係する全ての先生方の中での情報共有が大切だろう。